

乳がん高度検診・治療センター NEW-す NO.79



2020.12

遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)に関する診療が本年(2020年)4月から一部保険適応になったことはこの乳がん高度検診・治療センターNEW-すNo73で紹介しましたが、今回はHBOC患者さんに対する予防的手術について解説します。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群に対する予防的手術



HBOCでは反対側の乳がんや卵巣がんのリスクも高いのですが、すでに乳がんを発症した患者さんに対する対側のリスク低減乳房切除術・乳房再建術やリスク低減卵管卵巣切除術も今回保険収載となったのは患者さんにとって大きな朗報です。対象となるのは乳がんあるいは卵巣がんの患者さんで遺伝子検査によりHBOCと診断されている方です。

1. リスク低減乳房切除術・乳房再建術

HBOCの乳がん患者さんでは、対側に新たな(転移ではない)乳がんができるリスクがかなり高く、対側の予防的な乳房切除が勧められる場合があります。発症年齢や、すでに罹った乳がんの病期やタイプによって推奨の程度に違いはありますが、最終的にはカウンセリングを受けられた後の患者さんの意向が尊重されます。リスク低減乳房切除術では乳腺組織はすべて切除しますが、乳房皮膚や乳頭を残す術式が採用され、通常同時に乳房再建術を行います。

2. リスク低減卵管卵巣切除術

HBOCの乳がん患者さんでは卵巣がんや卵管がんを発症していないか精密検査が必要となります。卵巣がんや卵管がんを発症していなければ、若年者で妊娠・出産を強く希望しているような場合を除き、リスク低減卵管卵巣切除術を受けることが勧められます。ただ、閉経前ですと更年期障害が生じるという不利益があることも知っておいてください。



こうした予防的手術が保険適応となったからといって、予防的手術がより強く推奨される、というわけではなく、サーベイランス(厳重な経過観察)という有効な選択肢もあります。各個人の価値観や社会的背景に基づいて、十分な遺伝カウンセリングののち、本人の意思に基づく選択と実施が強く推奨されています。

当院でも予防的手術にむけて鋭意準備を進めていますが、2020年12月現在の時点では、希望のある該当者があれば対応可能な連携施設へ紹介することになります。

さらに詳しくお知りになりたい方は、
下記資料をご参照ください。

日本乳癌学会HP 市民の皆さまへ

http://jbcs.gr.jp/forcitizen/static/pdf/2_hboc_fc_re.pdf



市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

乳腺外科
稲治 英生

